

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 22 日

評価対象事業		評価者	下水道河川課担当課長 杉田 公敬	
都整-27	実施事業	雨水排水施設維持管理費 (特別会計) ■ 自治事務 □ 法定受託事務	主管課	下水道河川課
			関連課	浄化センター
総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道の整備・管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	大雨や台風による洪水や溢水から市民等を守るため。
効果	低地排水ポンプ場及び河川・水路護岸等の雨水排水施設の良好な状態を保持する。

2 平成28年度に実施した事業の概要

・台風や大雨等による溢水や洪水等の被害を未然に防ぐため、水路や排水溝等の雨水排水施設の修繕を行うとともに施設のしゅんせつ・清掃等の業務を委託した。

3 事業費等基礎データ

データ区分 人口等の データ	データ区分	27年度決算	28年度決算	データ区分	29年度当初予算	備 考
	人 口	177,243人	176,869人	人 口	176,466人	
	世 帯 数	80,676世帯	80,928世帯	世 帯 数	81,150世帯	
	事業の対象者数			事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	30,130	17,860	当初予算(千円)	54,968	
	国県支出金			国県支出金		
	地方債			地方債		
	その他	4,746	4,892	その他	5,251	
	一般財源	25,384	12,968	一般財源	49,717	
	人員配置数	2.8	2.6	人員配置数	2.8	
	人 件 費(千円)	21,789	20,517	人 件 費(千円)	22,065	
	事業経費運営	総事業費(千円)	51,919	38,377	総事業費(千円)	
市民1人当りの 経費(円)		293	217	市民1人当りの 経費(円)	437	
対象者1人当りの 経費(円)				対象者1人当りの 経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
	協 働	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	△. 協働未実施
	協働実施済の場合のパートナー	
事業内容の方向性	□ a: 事業内容を見直す ■ b: 事業内容は現状通りとする □ c: 事業を休止又は廃止する □ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	見直しの種類 □ 拡大 □ 縮小 □ その他
	事業へ統合	
予算規模の方向性	■ A: 予算規模を拡大する □ B: 予算規模は現状維持とする □ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 雨水排水施設の修繕工事は、突発的で緊急性の高いものが多いことから、緊急時に備えることはもとより、施設の健全度評価に基づいた事業を進めることが必要であるが、近年、発生件数が増加したうえに人件費及び材料費が高騰していることから、予算規模を拡大する必要がある。
総評(評価に対する考え方、根拠等)	大雨や台風による浸水被害から、市民の生命や財産等を守るためには、雨水排水施設を健全に維持していく必要があることから、事業費の拡大が必要である。 雨水幹線の劣化診断調査に基づき修繕を実施しているものの、未実施箇所が多数残っていることから、優先順位を付け、費用対効果を考慮し、予算を確保しながら事業を進めていく。 引き続き、雨水幹線の劣化診断調査に基づく修繕工事を実施するとともに、平成27年度に策定した「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」に基づく予防保全型管理への移行するための体制作りが必要である。	

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	財政状況の厳しい中で雨水排水施設の修繕は予定通りに実施できていないことから、未実施箇所が積み残されていくことが危惧される。	
課題解決のために行った平成28年度の取組	予算内で施設の修繕等を行うために、安全性には十分に配慮しつつ、低廉な工法を選定した。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	雨水幹線等の劣化診断調査結果に基づく、修繕の必要箇所は多数残っている。 平成27年度に策定した「鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画」に基づき現状把握に努め、予防保全型管理に移行するとともに、補助金を活用しながら、事業展開を図るためには、そのための準備期間が必要となる。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

比較事項									
団体名									
他市実績									

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う 他市比較に関する 考え方	
------------------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容		雨水幹線の補強修繕					単位	m	指標の 傾向		備考
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		平成25年度 までの施工 実績
道路下に埋設されている雨水幹線は、劣化箇所等の補強修繕が継続的に必要なため。		目標値	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0		200.0		
		実績値	200.0	200.0	0.0						
		達成率	100.0%	100.0%	0.0%						

指標の内容	修繕要望対応件数					単位	件	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31	平成25年度 までの処理 実績	
日常的に寄せられる雨水排水施設の修繕要望の対応について、継続的な対応が必要なため。	目標値	150.0	150.0	150.0	150.0	150.0		150.0		
	実績値	170.0	145.0	170.0						
	達成率	113.3%	96.7%	113.3%						

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	雨水幹線の老朽化が進むため、継続的に年200mを目標に修繕を実施していく。 日常的に寄せられる要望については、年度毎に件数、内容が異なるため、要望内容を精査し、優先順位を決めて、年150件を目標に継続的に対応していく。
------------------------------	---